第22回根研究集会に参加して

日 木 一 英
北海道農業研究センター畑作研究部

第22回根研究集会が2005年7月2日に北海道札幌市の独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構北海道農業研究センター（以下、北農研）新会議室で開催されました。今回は本研究発表者のみならずスタッフ、座長といった大役を命ぜられ、心持ちプレッシャーを感じながらも参加しました。

当日は、北農研の一般公開と開催日が近いため、ぎりぎりの用語の中での開催となりました。会場は、札幌の中心部からほど離れていないものの、周辺に宿泊施設がないことから参加のみなさまにはご不便をおかけしたにも関わらず、北海道内、全国各地から多くの参加者が集いました。口頭発表11、ポスター発表15の講演が行われ、それぞれに活発な議論、意見交換がなされ、発表者のみならず参加者全員がそれぞれに得ることがあったと思われています。

さて、「根の研究が風呂敷を広げやすい」ということで、当日は私の不侭をよそに順調に事が運び、会議室の場所が取り組むことができ、特に団結の意味を持っています。口頭発表では情報、計画・評価法をもとにした多岐にわたった内容から、「根の研究」は幅広い植物、専門分野をわたりを再認識させられました。そのことから研究会の活発な発表の源になっていることを感じ、また、専門分野の集まりよりも、それぞれの立場や意見が大いに違う研究家が集い、議論を重ねて補完し合うことが多かれこれで植物の進歩に役立つことを改めて感じました。

もちろん、私が座長を務めさせていただいた演題についても大変に興味深く、活発な質疑応答があったのは言うまでもありません。札幌農業センターの村上さん他5名による「根系識別のためにの染色法」では、根系を視覚化する手法についてわかりやすく説明していただき、講演レベルでの推奨への応用の研究を期待しておりました。東大院の田島さん他4名による「ラッカセイの根粒サ

イズとアセチレン還元活性で評価した薬素安定性との関係」では、生物の薬素安定研究に興味を持った私にとって学ぶところも多かった。また、今後の研究発展にも希望を送りたいと思いました。名古屋の豊田さん他1名による「キマメとセスパニブはいかにして地下木を利用し乾燥ストレスを回避するのか？」では、作物において異なる吸水特性を示すについて説明していただき、大変に研究者としての探求心が刺激を受けました。さらに、懇親会に参加することによって、緊張を払拭することができ、今後の効果に期待しています。このようなチャンスをいただいた事をこの場を借りてお礼申し上げます。

さて、ポスター発表では、自身の発表のためポスターの前に立つ時間が長く、あまり発表を見ても回りませんでしたが、全体的にイネを材料とした研究が多いことに驚きました。また、個別に精力的研究を深めているのは、札幌農業センターや3名による「バクテリアを用いた根の伸長性に寄与する植物のクロスコンプレックス」と、生産研究部門の菅原さん他6名による「イネ・コアコレクションを用いた根組織構造の形態変異に関する染色体レベルの検索」でした。今後の発表にも期待したいと思います。

残念ながら研究集会後の懇親会とミートィングに参加できませんでしたが、かなり盛り上がっていたらしく聞いています。札幌で市内や大野さんがお世話になっている北海道を紹介していただけるのではないでしょうか？今後、根研究会が盛んに活発に発展していくことを願っています。今度、根研究会にエントリーする機会があった時には、より積極的に交流を図りたいと思っています。

最後になりましたが、今回の研究集会の運営委員会を担当したお驚き、ならびに北農研と北海道大学のスタッフの皆様には「ご苦労様でした」とか言葉を贈りたいと思います。